

第6章 まとめ

本WGは平成11年より、若干5名のメンバー構成でスタートした。その間、鋼橋製作の最終工程である防食技術の様々な課題を検討した。

また、大手塗料メーカー3社のご協力を得て、塗装最新技術（NOx光触媒技術、膜厚管理省略技術、下塗り・上塗り兼用塗料）等の知見に触れることもできた。加えて専門メーカーのご協力をいただき、新耐候性鋼材、スーパーステンレス、最新溶射技術等の新技術にも見識を広げることができた。

そうした中で最も貴重なご協力をいただいたのが、鋼橋技術研究会施工部会の会員各社である。部会メンバーには部会毎に貴重なご意見、ご指導を賜り、また報告書起案段階で、鋼橋防食技術に対する会員各社工場に対し、大変お忙しい中、アンケート協力をお願いし、貴重なデータを供出していただいた。防食工程は自動化、機械化の最も遅れている工程の1つであり、このアンケートを通じて、時には泥臭くもある本音の現場の声を垣間見た思いである。期待していた鋼橋塗装便覧の改訂版発刊が遅れているが、道示改定に沿って、防食技術も性能規定を軸に相当の変容を今後とも遂げていくことと思われる。幹事を中心としたWGメンバーの非力により、本報告書がご期待に沿えない内容となったことはお詫び申し上げなければならない。ただ多少なりとも参考にさせていただけることがあったら幸いである。

最後に常に施工部会を通じて真摯にご指導いただき、我々をまとめ上げていただいた、法政大学工学部教授 森部会長に心から感謝申し上げます。また名古屋大学の館石助教授を始めとする鋼技研施工部会幹事諸氏、いろいろとご協力いただいた部会員メンバー各氏に厚く御礼申し上げます。本報告のまとめとさせていただきます。